



## 阪南港の誕生

忠岡港、岸和田港、貝塚港は、昭和30年代に港湾整備事業が進められました。これら3つの港湾は大阪府沿岸のほぼ中央部の8km間に位置することから一体感を強め、昭和43年4月、港湾法により統合して、阪南港が誕生しました。重要港湾に指定された阪南港は、現在は木材チップや原木、砂利・砂などを主に取り扱っており、また埋立地である二色の浜産業団地や現在造成中の「ちきりアイランド」等では、製造業や物流・保管施設等の企業進出が図られています。

### 港章



PORT OF HANNAN  
OSAKA BAY

## SYMBOL MARK

阪南港の港章は、青色とライトブルーのツートンカラーを採用し、デザインは阪南港の頭文字である「H」をモチーフとしています。「H」の横棒は関西国際空港と阪南港を結ぶ架け橋を、下の3本の波型は阪南港の母体となった忠岡・岸和田・貝塚の3つの港及び自治体を表しています。関西国際空港のインパクトを最大限に活用した新しい港湾都市の建設を目指す、阪南港の理念が象徴的に表現されています。

## 阪南港の歴史年表

年	記事
16世紀頃(安土桃山時代)	貝塚港 豊臣秀吉の貿易奨励政策と合致し、商港として栄える
1791年(寛政3年)	岸和田港 岸和田藩主岡部氏の命により、古城川尻に防波堤を築き船入場とする
1922年(大正11年)	岸和田港 内務省の指定港湾となる
1947年(昭和22年)	岸和田港 大阪府営港湾として第2期修築3カ年計画に着手(昭和31年第3期修築工事完工)
1952年(昭和27年)	岸和田港 大阪府が港湾管理者となる
1956年(昭和31年)	忠岡港 大阪府が港湾管理者となる
1958年(昭和33年)	貝塚港 大阪府営港湾として貝塚港整備4カ年計画策定、工事着手
1962年(昭和37年)	貝塚港 大阪府が港湾管理者となる
1966年(昭和41年)	岸和田臨海工業用地造成事業(大阪鉄工金属団地)完成(岸和田市)木材コンビナート完成
1968年(昭和43年)	忠岡港、岸和田港、貝塚港を統合して、「阪南港」が誕生 「阪南港」重要港湾に指定・「阪南港港湾計画」策定
1970年(昭和45年)	阪南1区(地蔵浜地区)埋立事業着工(平成2年埋立完了)
1978年(昭和53年)	阪南4区「二色の浜環境整備事業」の工事着手
1984年(昭和59年)	大阪府港湾局発足
1988年(昭和63年)	岸和田水門完成・新防潮ライン完成
1989年(平成元年)	岸和田日港埋立工事着手(平成4年埋立竣功) 阪南港 港章を制定
1997年(平成9年)	岸和田日港再開発地区 商業施設東館竣工
1999年(平成11年)	阪南2区(ちきりアイランド)事業着手
2008年(平成20年)	阪南4区新貝塚埠頭供用開始
2009年(平成21年)	ちきりアイランドまぢりらき
2018年(平成30年)	阪南港開港50周年

参考文献：大阪府港湾局発行「阪南港港湾計画資料(改訂)」(平成18年2月)・「2018 大阪府営港湾要覧(別冊)」  
岸和田港振興協会発行「50年の記録」(平成15年)  
貝塚市発行「貝塚市の70年」(平成25年)

## 《阪南港へのアクセス》



## 阪南港は…

阪神高速湾岸線等の交通網によって各都市と緊密に結ばれており、関西全域、さらには、日本各地へ向けてスムーズに貨物輸送を行うことができます。

## 阪南港港湾振興連絡協議会(大阪府・忠岡町・岸和田市・貝塚市)

〒595-0055  
泉大津市なげさ町6番1号  
堺泉北港ボートサービスセンタービル10F  
大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ内

TEL: 0725-21-7203  
FAX: 0725-21-7259  
大阪府営港湾振興 WEB サイト <http://www.osakaprefports.jp/>

平成30年11月発行 この印刷物は印刷用の紙にリサイクルできます。



## 重要港湾

# 阪南港

PORT OF HANNAN

# 活力・憩い・安心



## 阪南港の歴史

「阪南港」は、泉北郡忠岡町・岸和田市・貝塚市にまたがる大阪府の府営港湾です。阪南港の前身である、忠岡港、岸和田港、貝塚港はそれぞれ特色ある歴史を重ねながら発展してきました。

### 忠岡港の歴史

現在の旧忠岡港付近の海浜は、興津浜と称して古今集にも歌われています。木曾義仲の将であった今井兼滋は、鎌倉幕府の命を受け平家追討のため平忠行と大津川をへだてて対陣し、現在の桶並橋の地で忠行を討ち取りました。そのとき、忠行を追善した丘を「忠行の岡」と呼んだことが、後年「忠岡」のはじめとなったといわれています。

当地では主に農業が行われていましたが、明治末期から副業の産物であった白木綿の需要が拡大したことから、以降、大正、昭和初期にわたって町には大小の紡績工場が軒を並べ、大阪府内有数の繊維工業地帯となりました。

昭和26年には、地元の実業家に依頼したかたちで、運輸省の指定港湾となり、さらに昭和31年には、大阪府が管理する港湾となり、その後、昭和39年の岸和田木材港の整備に併行して泊地の浚渫、接岸施設の施行等が進められました。

### 岸和田港の歴史

岸和田港は、寛政3年(1791年)岸和田藩主岡部氏が古城川の河口の草原をひらいて海浜の波止を築き、漁船の係留に利用されたのが港のはじまりといわれています。

大正11年には内務省の指定港湾に編入され、大正13年、5カ年計画事業として延長218mの檣石防波堤が築造されました。

昭和初期に至り、岸和田港は岸和田市による紡績業の誘致によって、わが国有数の起業地となり、窯業、金属工業の勃興とあいまって岸和田港の背後地一帯は一躍近代工業地帯となりました。そして、これら産業と直結する港湾の近代的修築が市営事業として昭和8年に企画され、昭和13年に工事が完了しました。

第二次世界大戦後、泉州地域の繊維軽工業等の再建に応じ、原料や製品等の輸送力増強を積極的に推進するため、再度基礎的修築の必要性が求められました。そこで、昭和22年、岸和田市から大阪府へ移管し、府営港湾として第2期修築工事に着手、昭和31年に完成しました。

### 貝塚港の歴史

貝塚港は、奈良時代の僧行基が当地に寄り(現在の貝塚市澤のあたり)、船舶への強風を避けるため、土砂、木材等を運び込んだことが始まりといわれており、古来より大阪湾を航行する船舶の寄港地や、強風等を避けるための避難地であったと伝えられています。

貝塚の地は古来より、海陸の便が良く、泉南の要衝を占め、林業、農業、水産業の発達とともに物資の集積地として繁栄したと伝えられています。

さらに、豊臣秀吉の「朝鮮の役」前後には、港湾物流増大の流れを受け、一大商港を形成し、瀬戸内海を主とする西国諸国との通商のために利用されたといわれています。

江戸時代中期から明治時代初期にかけては、西廻り航路の船隻「北前船」により、米や肥料(干鰯等)の生産地である北海道や東北地方等と結ばれ、当地方における移入の拠点として大いに活況を呈しました。

第二次世界大戦後の貝塚港の背後地は、繊維産業とともにワイヤーロープの生産がめざましく、国内有数の生産量を誇りました。そのような中、従来の陸送が飽和状態となり、貝塚港の大規模整備を要する声が地元より起こりました。そこで、昭和32年、大阪府により「貝塚港港湾計画」が決定され、昭和40年をもって工事が完了し、貝塚港の大規模整備が実現されました。

貝塚港は、この間の昭和37年から大阪府の管理となりました。



昭和30年代初期の忠岡港  
写真出典:忠岡町



昭和初期の岸和田港  
写真出典:岸和田港振興協会発行「30年のあゆみ」(昭和58年)より



昭和初期の貝塚の浜  
写真出典:貝塚市教育委員会発行「貝塚百年のかおり」(昭和44年3月)より